

Rinnai

冬場は給湯器の凍結にご注意ください

冬期は暖かい地方でも、給水・給湯配管の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。



もし給湯器が凍結してしまったらどうなるの？

お湯も水も出なくなります。



ガス給湯器内も凍結してしまうと水道管も凍結している可能性があります。この場合には、お湯だけでなく水も出なくなります。

ガス給湯器内の配管の破裂



配管が破裂すると、凍結が解消されてもそこから水漏れが発生し、大掛かりな修理が必要になります。

凍結による破損の場合は、保証期間内であっても**有償修理**となります

凍結予防方法 対策①～③まであります

対策その① 凍結予防ヒータと自動ポンプ運転による方法

外気温が下がる(機器周辺の温度が約3℃以下になる)と自動的に作動します。作動すると各リモコンの表示画面に「」表示や「凍結予防」の文字での表示が出ます。

台所・増設リモコン

浴室リモコン



■お客様に行っていただきたいこと

1、電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認してください。

※抜けているとヒータ・ポンプとも作動しません。

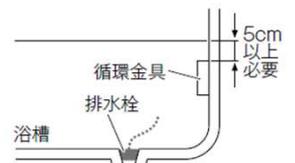
リモコンの運転スイッチは「入」「切」どちらの状態でも作動します。

2、浴槽の残り湯が循環金具(RFSシリーズは上部循環口)より5cm以上、上にある状態にしておいてください。

※配管内を満水にするために、自動運転の湯はりまたは湯たし水で浴槽内に水を入れてください。



RUFシリーズの場合



※機種により方法が異なります。詳しくは、お手持ちの機器取扱い説明書をご覧ください。

外気温が極端に低く(-15℃以下)なる日や、それ以上の気温でも風のある日は上記の対策その①では凍結予防ができなくなります。このような場合には、裏面の対策その②、その③の方法を行ってください。屋外の水が凍るおそれがある場合でお湯を使わないときは、その③の水抜きを行ってください。



対策その② 通水による方法

■ 操作のしかた

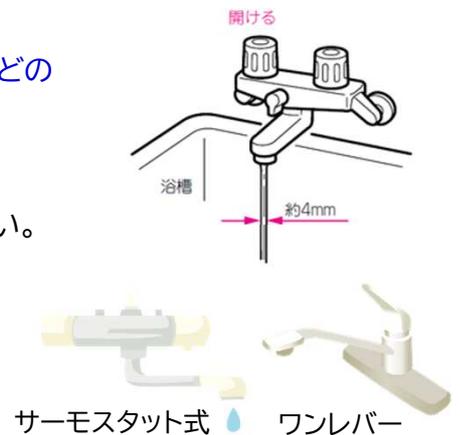
この予防方法は機器本体だけでなく、給水・給湯配管、給水元栓・給湯栓などの凍結予防もできます。

- 1、リモコンの運転スイッチを「切」にします。
- 2、浴槽に排水栓をしてお風呂の給湯栓(水栓)を開け、1 分間に約400 ミリリットル(太さ4mmくらい)の水を浴槽に流しておいてください。

- ※この場合、浴槽から水があふれることがあります。
- ※浴槽の近くに給湯栓がない場合は、シャワーホースを浴槽まで伸ばしてシャワー栓を開けてください。シャワーから水を流す場合、シャワーヘッドは浴槽にたまった水につかからない位置に置いてください。
- ※サーモスタット式やワンレバーの混合水栓の場合は、設定を最高温度の位置にしてください。再度使用時、設定温度にご確認ください。

※水量が不安定なことがあります。念のため、30分ぐらい後にもう一度水量をご確認ください。

※機種により方法が異なります。詳しくは、お手持ちの機器取扱い説明書をご覧ください。



対策その③ 水抜きによる方法

・機器内の水を抜き、凍結を予防する方法です。外気温が極端に低く(−15℃以下)なる場合は、この方法で行ってください。

- ※ 機器の使用直後は機器内のお湯が高温になっていますので、やけど防止のため、必ず機器が冷めてから行ってください。

■ 給湯側・ふろ側の順で水抜きを行います。

水抜き方法に関しましては取扱説明書をご覧ください。
取扱説明書がお手元に無い場合は右記QRコードよりご確認可能です。
使用している給湯器の型式を入力いただきご確認ください。



給湯器がもし凍結してしまったら

給湯器からお湯も水も出なくなった場合には、給湯器の凍結の可能性があります。

この場合は、

- ★給湯器のリモコンをOFFにしてください。(※給湯器のコンセントは抜かないでください)
- ★気温の上昇によって自然に解凍するまでお待ちください。
- ★給湯栓から水がでるようになったら、給湯器やその配管から水などが漏れていないかを確認してからご使用ください。

給湯配管にお湯をかけて解凍をすることは、配管やバルブの破損の原因となりますので、おすすめいたしません。
なお、凍結による破損の場合は、保証期間内であっても有償修理となります。



お問い合わせはこちらまで